

子どもたちの主体的な生活が鍵となる「科学する心」を育む環境。そのために園の環境をどのように工夫していますか？実践事例集を園内研修に活かし、そこで得た「保育者の気付き」を、その後の環境の在り方へ繋げていった流れをご紹介します。

保育者の気付きを環境へ ～園内研修を活かして～

主題の捉え方を共有するために、職員がグループに分かれ、実践事例集 vol.11 の事例を基に読み取ったこと・学んだことをディスカッションし、報告し合う研修を行った。

「視点をもつ」「子どもを理解する」「保育の工夫」「記録を活かす」という「科学する心を育む」ことに繋がる4つの観点のグループに分かれ、事例を読み取ったり深めたりしながら取り組んだ。

「自分たちは記録を活かしていたか？」「子どもの姿を共有できていたか？」「子どもたちの遊びの姿を子どもたち同士で共有できるような場の工夫をしていたか？」など、自分たちの保育を振り返ることができ、多くの気付きがあった。

4つの観点のグループに分かれての話し合い、まとめを発表し合う。その後職員全員で共通理解した。



研修の様子をまとめて園のホームページにも公開。

職員研修を行いました！(1)

本日「思考力の芽生えを育む保育」の実践をめざし、職員で研修を行いました。事例集にもとづき、「1. 視点をもつ」「2. 子どもを理解する」「3. 保育の工夫」「4. 記録を活かす」という4つの観点のグループに分かれ、事例を読み取ったり深めたりしながら取り組みました。



グループで学びを深めた後は、それをまとめ発表し、職員全員で共通理解しました。今回の研修で学んだことを大切に、今後も充実した保育の実践に取り組みたいです！



「科学する心」を育むための、環境や援助について分析・考察、自分たちの保育に活かす。

例1 活動の共有を図る環境

子どもたちの見やすい高さを考慮し、子どもたちの気付きや発見、探求の姿などを可視化するために、手作りの掲示板を作成。

子ども同士が、掲示を見ながら、伝え合い・考え合い共感し合うなど、遊びや活動を共有する場となった。



例2 気付きを大切にできる環境

この研修での、保育者の「気付き」をきっかけに子どもたちを見る視点が変わった。子どもが栽培している大根の葉がチクチクすることに気付いた。保育者はそのつぶやきを見逃さずに耳を傾け、共感した。それによりさらに子どもが好奇心を膨らませ「これはなんだろう」と、葉のトゲを発見、探求する活動が生まれた。